

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅰ 6章12～20節>
一見、難解。しかし、読み解く鍵が分かると見えて来る！

①鍵その1 時代背景の違い。問題は「体」、すなわち性的放縦。

「体」という語が何度も出てきます。これは抽象的なことではなく、まさに体が関係する性的交わりのことが考えられています。5章や次の7章で具体的な問題が取り上げられています。当時コリントでは性的乱れがひどく、信仰を持った人の中にも「娼婦と交わる者」(16)がおり、「信仰とそれとは関係ない」と主張していたのです。パウロはここで、「そうではない」と語りかけているのです。

②鍵その2 表現方法。相手の言葉をそのまま用い返している。

パウロがその際に、相手が語る言葉をそのまま用いて言い返す仕方を取っています。「」で書かれた言葉がそうですし、それ以外にも「食物は腹のため、腹は食物のため」(13)「人が犯す罪はすべて体の外にあります」(18)などもそうです。これらの言葉に対してパウロがどう言い返しているかを見ることが大事な鍵です。

③自分の権利主張をする者から、恵みの神様の声を聞く者へ！

性的倫理は、本人にとってどうかだけを見つめて議論しても、人は自分にとって都合のいい、欲望に身を任せる方向の主張をしがちです(12-13a, 16, 18)。しかし、自分だけではなく、神様を見つめて考え出す時に全ては変わって来ます！ しかも、そこで大事なことは、倫理的に厳格な神様を考えるというのではなく、私たちの罪を赦すために十字架について下さったキリストと、その主をお与え下さった神様から考え始めることです。パウロの主張は全てそのことが考えながらなされています(13b-15, 17, 19-20)。現代的な表現で言うなら、信仰は、私たちを自分の自由の権利主張をする者から、私たちのことを一番考えて下さっている恵みの神様の声に聞いて生きようとする者に変えてくれるのです。「あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿って下さる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから自分の体で神の栄光を現しなさい」(19-20)。素晴らしい、私たちの新しい存在の意味の示しです！